

当面の重点支援プロジェクト

提案されたプロジェクトのうち、事業用地が確保済みであるなど計画熟度が高く、先導性の高い以下の5件のプロジェクトについては、「新エネルギーの導入・既存エネルギーの高度利用に係る当面の推進方策」に基づき、その円滑な事業化を庁内横断的に支援していく。

事業主体	実施場所 (面積)	運用開始予定	事業概要	特色
(株)新昭和	市原市山田 (4.6ha) 木更津市矢那 (4.7ha)	平成24年 7月以降	社有地での太陽光発電 (合計出力4MW弱)	住宅産業によるエネルギー 事業参入
日本開発興業(株)	君津市法木 (3ha:1次計 画と2次計 画の合計)	(1次計画) 平成24年 4月 (2次計画) 平成24年 7月以降	社有地での太陽光発電 (1次計画 出力0.1MW) (2次計画 出力2MW弱) ※1次計画については、 自家発電用を想定	事業跡地(砂利採取場)の 二次利用
共栄海運(株)	木更津市矢那 (3ha)	平成24年 7月以降	社有地での太陽光発電 (出力1.5MW)	事業跡地(砂利採取場)の 二次利用
大多喜町	大多喜町面白	平成25年度 を想定	小水力発電 (出力50KW)	既存施設(水力発電施設跡 地)の二次利用
(株)東光オーエー システム	富津市 千種新田 ほか	平成22年 6月から 運用中	太陽光発電100%で無停電 の「ソーラーデータセンタ ー」の開発及び運用 ※関連事業も研究開発中	新エネルギーと他分野との 組合せ

(合計出力 約7.5MW)

また、上記のほか、提案されたプロジェクトやその他寄せられた事業提案の中には、今後事業用地の確保などで関係者間等での調整が必要となるものの、県内の大規模な未利用地の活用につながる提案も複数あった。これらのうち、特に以下のような未利用の公有地や二次利用の可能性がある民有地については、相当程度のポテンシャルがあると思われ、今後、本県の特色を踏まえた展開の可能性もあると考えられることから、これらの未利用地を活用した事業についても、関係市町村等と連携しつつ、その促進方策について検討を深めていく。

(1) 成田スカイアクセス沿線（未利用の公有地）

成田スカイアクセス沿線の旧成田新幹線用地等は、約 24ha の未利用地（印西市～白井市間、総延長約 20km、公有地）であり、太陽光発電の設置により数 MW の出力が想定される。

スカイアクセス沿線地域での自立的な電力確保や、千葉ニュータウンや成田空港の魅力の向上などにつながる可能性もあるため、同用地の公募も視野に入れて検討を行う。

(2) 富津市浅間山砂利採取跡地（二次利用の可能性がある民有地）

浅間山砂利採取跡地は、未利用となっている県内最大級の砂利採取跡地（約 200ha、複数の地権者による民有地）であり、太陽光発電の設置により数十 MW 程度の出力が想定される。

当該跡地での事業化は、大規模未利用地の有効活用や地域活性化につながりうると期待される所であり、地元市としても新エネルギーの導入を視野に入れた土地利用の方向性を検討していることから、県としても、今後の事業実現に向けた地元市による検討を支援していく。